

7月号 広報みふ



町の花 ゆうがお

発行 栃木県壬生町 昭和53年7月15日



夏祭り

この写真をさしあげます
お申込みは、企画課（☎4260内線50）へ

お知らせ



母親教室

とき 8月25日(金)
午後1時～3時
ところ 総合運動場管理棟

壬生町社会福祉協議会(佐藤正幸会長)は、町民全員が明るく生活ができるよう老人福祉・身体障害者(児)福祉・児童福祉・母子福祉・その他の福祉を行っていただきます。ただいま協議会ではこれらの活動資金をみなさんに協力いただくため会員募集を行っています。なお、福祉団体の者と称している中にも不明なものがあるようです。ご注意ください。

内容 ①妊娠中の保健
②妊娠中の栄養
③妊娠中の異常
④妊婦体操
持ち参るもの 母子健康手帳、スラックス

三カ月児検診

とき 8月17日(木)
午後1時30分から
ところ 総合運動場管理棟

内容 専門医による斜視、股関節

8月の納税

町民民税
第2期分
国民健康保険税
第2期分

運動免許更新講習
8月8日(木) 中央公民館講堂
8月22日(木) 獨協医科大学
時間は、いずれも午前10時から
また、壬生自動車学校における講習会は次のとおりです。(無料です)
8月2日(木) 午後4時～6時
8月6日(月) 午前9時～11時
8月9日(木) 午後4時～6時
8月12日(日) 午後2時～4時
8月19日(土) 午後2時～4時
8月23日(月) 午後4時～6時

節脱白など
持ち参るもの 母子健康手帳

社会福祉協議会の
会員募集

壬生町社会福祉協議会(佐藤正幸会長)は、町民全員が明るく生活ができるよう老人福祉・身体障害者(児)福祉・児童福祉・母子福祉・その他の福祉を行っていただきます。ただいま協議会ではこれらの活動資金をみなさんに協力いただくため会員募集を行っています。なお、福祉団体の者と称している中にも不明なものがあるようです。ご注意ください。

8月27日(日)
8月31日(木)
午前9時～11時
午後4時～6時

ただいま町内で
買いましよう

たばこ、食料品は、町の貴重な財源の一つです。

高額療養費の
貸付について

療養世帯の生活の安定をはかるため高額療養費の一時負担が困難な者に対して貸付を行います。対象者 一世帯の所得が二百万円未満
貸付金額 療養費の10分の8以内(額で一人当たり一万円～三〇万円)
利率 無利子
※詳しくは役場内社会福祉協議会へお問い合わせください。

魔大引き取り日

とき、ところ
8月9日(木) 8月23日(木)
役場本庁 午前9時10分から
南大飼支所 9時30分まで
稲葉支所 9時50分まで

今月の人口

7月1日現在 対前月比
総人口33,099人 78人増
男 16,401人 38人増
女 16,698人 40人増
世帯数 8,738世帯33世帯増



209

鳥居家中興譜について

その二六

そこで甲州全体がおどやかなり、家康は海野という所に陣を張っていたので、元忠は、甲州がすっかりおどやかなりになったことを報告し、又、討取った敵の首を小佛時に集めた。その時黒駒の案内役とされた梶原左五門は、今度の合戦で一生懸命働いて討死してしまった。元忠は彼の武勲の志を感し、又、その死を惜しみ、文左五門の幼ない一人子をよび出し、ほうびを与えて家来として召使おうと言うとその子の母(文左五門の妻)は堅くことわり、「此の子は、まだ十才になりません。今、母の懷をはなれて奉公に出すことは、どうしても出来ません。その上私は元から農家の者であって、戦のてがらを立てようなどの望みはありません」といった。そこで元忠は、止むを得ず腰にさして小刀をとって、「この子が大きくなって武士となる心があつたら私のところへ来なさい。これを今日の約束の証にしよう」といって与えた。その刀は信國という刀鍛冶が作った九寸五分、三十握りの短刀であった。

つた。そして元忠のてがらを賣して、「お前が今度北条の兵を破って武勇を振ったことは実に昔から今までにこの例が珍らしいことである。昔、源義経が鶴越から攻下つて平家の軍を二の谷で破り、又木曾義仲が俱利伽羅谷に於て平家の軍をほろぼしたという。そのてがらは今も、人の口にはほくことである。お前のてがらは決して義経や義仲に劣ることがあろうか、その上、屋村城はお前の槍先でとった所である。ほうびして与える土地ではない、永く自分の領地にしよう」といって非常に感激した。元忠は重ねて黒駒、藤の木村の者のてがらをほめて家康の耳に入れた。家康は、この人々を大いにほめた。この両村は永く種々の役言いつけないようにするといった。今でもこの村は役をさせられない。その後家康は、十一月十日に甲州を出発して浜松にかへり甲州には元忠を置いて守らせた。その後、北条家と徳川家の仲直りがきまり、その条件として家康の娘(小督姫)を北条氏直に嫁がせる約束があつた。だからに新しく人質をとる必要がないというので北条氏から今まで人質として取つておいた大道寺駿河守、山角上野介を北条氏に返すことになり、榊原康政、水野勝成、鳥居元忠がこの二人をつれて三坂の城行つて北条義遠守、氏直の家来に渡し、帰った。

【筆者 藍田】